2026年06月18日　デイリー版2面

内航/フェリー

船員ウェルビーイング、寝具の改善じわり進展。スプリングマットレス増加

【関西】船員のウェルビーイング（心身の健康や幸福）に対する関心が高まる中、居住区の寝具に高密度連続スプリングや、特殊な中材を用いたマットレスの採用が進んでいる。造船関係者によると、新造船を中心に今夏にも導入が100隻に及ぶと見込まれているという。一部ドックで新造船に標準装備化したことや、法改正などが追い風になっているとみられる。



特殊な中材を用いたマットレスの採用など、船員の寝具改善が進んでいる

国内建造船では、船員用寝具にウレタンマットレスを用いるのが主流。一方、国内メーカーのフランスベッドが船員向け寝具として高密度連続スプリングマットレスの製造を始め、2024年から導入が始まった。

関係者によると、25年に入り採用する船舶が増え始め、26年4月時点で90隻弱の船舶に計2000枚程度が納入されているという。8月には納入100隻、計2400枚超に達し、27年末には150隻超に広がる公算だ。

ウレタンに代わりスプリングを用いたマットレスの広がりは、造船企業グループ全体や一部ドックで標準装備とされたことが背景にあるという。また、国内船社が新造船で採用を決めるなど、船社・船主からの評価も高まりつつある。

船員向けマットレスを手掛けるフランスベッドもラインアップを拡充。国内繊維企業が開発したブレスエアーと呼ばれる、ポリエステル繊維の薄型中材を用いたマットレスを、26年初頭に新たに製品化した。

2段ベッドを採用している一部船種では、スプリングマットレスを導入できない課題があった。そこで、1本1本の繊維を中空化したポリエステルの3次元構造体で、高い弾力性と通気性、耐久性を兼ね備えたブレスエアーを中材に採用し、薄型のマットレスにした。

薄型マットレスは官公庁船などのニーズが見込まれている。同製品は国が定めるグリーン購入法の基準を満たしていることが特徴で、こうした船への導入を後押しする。同法では国の公的部門での調達時に、できる限り環境負荷低減に対応した適合品を選ぶ必要があるためだ。

官公庁船や練習船で薄型マットレスの導入が検討されており、新造船だけでなく既存船でも今後のグリーン購入法対応に向けた潜在的なニーズが見込まれている。

海運業界では内航船での若手船員の確保と定着が課題となっている。メーカー側は今後、自社で日本人船員を抱える内航船社向けに船員のウェルビーイング確保の観点から普及を図り、船員の働きやすさ改善に貢献していく構えだ。